



全難聴便り

発行：事務局 〒162-0066
東京都新宿区市谷台町14-5 MSビル市ヶ谷台1F
編集：全難聴事務局
電話：03(3225)5600
FAX：03(3354)0046
URL：<http://www.zennancho.or.jp>
E-Mail：zennacho@zennancho.or.jp

広島県の状況（速報）

8月15日から続く大雨による被害が続いています。

広島県広島市安佐南区、安佐北区での被害状況が報道されていますので、広島県協会、広島市協会に安否確認を行いました。両協会より以下の回答がありました。

広島県難聴者・中途失聴者団体連合会藤川会長より

「今はまだまだ詳細が把握できていませんが、会員の中にはヘリで救助された方もおり、どんな状況かとても心配しています。今日（22日）私たちの会員や要約筆記サークル「おりづる」の者が数名で現地に入り、状況把握に当たってくれています。また詳細の報告が入り次第後連絡します。」

広島市中途失聴・難聴者協会 内会長より

「幸い、当協会会員で対象地区に住む者が全員、生命、家屋共に無事でしたので御安心ください。当協会では引き続き、他の難聴者に対しても手厚いサポートをして参りますのでよろしくをお願いします。」

その後、広島県協会の伊達事務局長と連携を取り、関係機関に要望書の提出を行いました。

広島県、広島市協会を代表して藤川会長が広島県及び市に。全難聴は内閣府防災担当大臣、総務大臣、厚生労働大臣あてに「聴覚障害者支援について緊急要望」を提出しました。

○協会要望書抜粋

広島県知事 湯崎 英彦様

災害救援避難所における補聴援助に係る要請（お願い）

広島県難聴者・中途失聴者団体連合会会長 藤川 修次

広島市中途失聴、難聴者協会会長 内 惻

（要旨）避難された被災者には高齢者の方も多く、聞こえの不自由な方も多いのではと思われます。また、私たち難聴者・中途失聴者の仲間や会員のなかにはヘリで救助された方や、家屋等が被災されやむなく避難所生活に入られた方もおられます。障害者基本法改正で災害時必要な情報が迅速かつ的確に伝えられるよう施策を明記されています。当事者等の不安解消や、家族も含めた皆さん方の心身の疲れが出ないように、早急に取り組みをして頂きますようお願い致します。

【避難所の準備項目として ホワイトボード、字幕放送機器、要約筆記者配備等要望】

○全難聴要望書抜粋

（三省大臣宛）

8月20日未明に起きた広島のと砂崩れ災害に関する聴覚障害者への情報保障について緊急要望

一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会理事長 新谷 友良

（要旨）広島県安佐南区・安佐北区のと砂崩れで甚大な被害が報道されています。全難聴でも情報収集していますが、避難所や被災者には高齢で聞こえにくくなった方や、広島市中途失

聴・難聴者協会の会員もいます。音声情報を得にくい中途失聴・難聴者は、災害放送・報道に手話などの視覚的情報、特に「字幕」がないと、状況がわかりません。特に身近な情報を報道しているのはローカル局ですが、報道にはいっさい字幕がありません。

つきましては、中途失聴・難聴者に対する情報アクセスの確保・充実について、以下の通りお願い申し上げます。

1. NHK、民放各社に対し、緊急災害時におけるローカル番組を含むテレビ放送に、字幕・手話を必須とするよう働きかけてください。
2. 「視聴覚障害者向け放送普及行政の指針」では、緊急災害時の放送への字幕・手話付与を義務づけてください。
3. 指針の見直しの際には、当会をはじめとする当事者団体の意見を反映させるための措置を講じて下さい。

藤川会長が広島県と市に要望書を提出する際、避難所の早期開設の御礼を述べたのに対し、県、市の担当者ともに誠心誠意対応され、「できるだけ要請に答えたい」との返答を得たと報告がありました。

障害者施策の変化に対応急務

内閣府は、第13回障害者政策委員会を9月1日に開催します。前回第12回は、4月28日に開かれましたが、その後5月22日にこの委員会の委員の任期が終わりました。その後、新たに30名の政策委員が選任されましたが、残念ながら新谷理事長は再任されませんでした。

今回省内の人事異動で共生社会政策担当の審議官に着任されたのは、中島 誠さんで、新谷理事長就任挨拶の際に、内閣府でお話をうかがいました。

中島審議官については、自立支援法から総合支援法までの流れの中心人物との評価をされています。(盲人会連合竹下会長談)

差別解消法の基本方針を決定するプロセス、また総合支援法の見直しプロセスにおいても、難聴者の意見を反映させるための方策が全難聴として必要になります。

これらに直接関連することではありませんが、日頃障害者四団体として活動している団体のひとつ「盲ろう者協会」は、20数年の長期にわたって受けていた福祉医療機構からの助成金が打ち切られたとの情報があります。

独立事業法人として福祉医療機構自身への評価が厳しくなったことが原因と思われるが、現在の政策では障害に関してあらゆる側面から予算の壁が現れることは間違いないことの一例と考えられます。

新理事抱負

新副理事長抱負

常務理事就任時はお役に立てなかったのに、副理事長が務まるか不安たっぷりです。新谷新理事長を支えていけるよう、全難聴を盛り立てていけるよう、精一杯頑張っていきたいと思っております。

宮本 せつ子

新理事抱負

事務局長を続投することになりました。正副理事長、常務理事、理事の皆さんの業務遂行に協力してまいります。また内部、外部からの問合せ窓口としても今まで同様に誠意を持って対応してまいります。

佐野 昇

全要研との定期協議会開催（8月16日）

全国規模の要約筆記団体である「全国要約筆記問題研究会」（全要研）と全難聴は、難聴者支援に関わる活動の両輪として動いています。

連携を強めるため、両団体は年に2回定期協議会を開催しています。現在は、夏に東京で開催、冬は全要研の本拠地である名古屋で開催しています。

今回はお盆休みの中、8月16日に三田障害福祉会館にて行なわれました。

メンバーは、両団体理事長、事務局長及び要約筆記関連の責任者で構成されています。今回より、新谷理事長が参加しました。加えて、新たに全難聴要約筆記部長に就任した宇田川芳江さんも協議会に加わりました。

協議の中での議題例です。

- 公費の要約筆記派遣の対応がされない事例への対応
- 上記に関わる自治体、学校への働きかけについて
- 教育、雇用分野への要約筆記配備など意思疎通支援について打ち合わせ
- 上記に関わる政府関係機関への要請行動の調整
- 指導者養成講座など要約筆記関連事業についての打ち合わせ
- 両団体で共催している全国統一要約筆記者認定試験の実務的打ち合わせ
- 両団体の行事（大会、シンポジウム等）への協力確認

議題は多岐にわたり、それぞれが重要な内容が含まれ、場合によっては緊急性もともないますので、協議は1日がかかりとなります。

協議結果はそれぞれが持ち帰り、実質的な活動にとりかかります。

政令指定都市身体障害者福祉団体連絡協議会が開催（8月23日）

第55回の協議会は静岡市が担当して翌日のスポーツ大会とともに開催されました。この中で全難聴加盟の政令指定都市協会の代表者を持って構成する「難聴部会」も開催され11市、18人の参加でした。情報保障は要約筆記、手話通訳、磁気誘導ループでした。14議題が挙げられました。

1. テレビ(特にNHK)字幕でも国会中継や各地方放送局番組への字幕付与を [札幌]・[川崎]
2. 日常生活用具(聴覚障害者用通信装置：ファクシミリ)への多機能携帯端末の追加指定を [仙台]・[横浜]・[神戸]・[広島]
3. デシベルダウン [千葉]・[大阪]・[北九州]・[福岡]
4. 補装具(補聴器)の交付金額の改定 [名古屋]
5. 要約筆記コーディネーターの報酬 [神戸]
6. 要約筆記者設置条例の制定 [広島]
7. 市等の主催の集会・講演会への要約筆記の公費配置化 [静岡]

以上、7議案のうち、従来より取り上げてきた議題は1. 2. 3. 4. です。5. 6. 7.は今回が初めてです。部会討議の結果1.~4.を採択し全体会で報告し、承認をいただきました。

来年は、九州の北九州市にて開催されます。政令市のうち、加盟しているのは16市となっています。このうち難聴部会への参加の無かった全難聴加盟協会は5市、欠席は1市でした。

報告:佐野 昇

📌 理事の動き（8/1～8/31）

- 8月1日 アイセックジャパン面談（川井、小川部長）
- 8月1日 第23回全国盲ろう者大会開会式典（川場）
- 8月5日 官公庁新理事長挨拶回り（新谷、佐野）
- 8月8日 全国手話通訳問題研究集会 in 福島（新谷）
- 8月16日 全難聴・全要研定期協議会・東京（新谷、佐野、宇田川部長）
- 8月19日 字幕ガイドラインについての面談（新谷、小川部長）
- 8月20日 電気通信アクセシビリティ標準化検討WG（小川部長）
- 8月23日 政令指定都市身障者福祉団体連絡協議会 in 静岡（佐野、川井、高木、荒川）
- 8月26日 JDF 幹事会（新谷）
- 8月27日 朝日新聞社社会部記者取材（補聴器装用に関する諸課題・諸問題）（佐野）
- 8月27日 補聴器、人工内耳関連団体挨拶回り（新谷、佐野）
- 8月29日 全難聴常務理事会
- 8月30日 全難聴第4回理事会

📌 事務局報告

- 8月5日 官公庁挨拶回り
- 8月16日 全難聴・全要研定期協議会
- 8月16日 事務局会議
- 8月27日 補聴器、人工内耳関連挨拶回り
- 8月29日 全難聴だより No. 75 発行

《予定》

- 9月1日 障害者政策委員会（事務局傍聴）
- 9月2日 厚労省認定係ヒアリング（新谷）
- 9月8日 時宝光学新聞社取材
- 9月9日 人工内耳関連団体挨拶回り
- 9月29日 全難聴だより No. 76 発行予定

「冬芽を想う」反響ありがとうございます

7月31日に発行しました体験談集「冬芽を想う」について、様々なご感想をお寄せいただきました。ありがとうございます。

加盟協会の皆様のみならず、情報支援機器メーカーの方々からも、「社員みんなで読みましょう」ということでまとめてご注文をいただきました。

先日、全難聴から国会図書館への納本をしました。近日中にデータベースに登録されますが、これは全国各地域の図書館から検索できるようにすることが目的です。

書籍の検索から、地域の図書館に購入して蔵書してもらうことが今回の発行の目的のひとつなのです。

一般の方々に難聴者中途失聴者の情報を広く知っていただくための活動へつなげます。その際には、図書館への蔵書要望など個別のご協力をお願いしたいと思います。

詳細については、後日ご連絡いたします。よろしくお願いいたします。

（事務局）